

本セミナーの内容

【午前】

- 技術士とは何だろうか？
- 試験制度
- 一次試験の内容と対策

【午後】

- 二次試験の内容と対策
- 記述式試験対策
- 演習

東北から北関東地方の沿岸地域は、津波で壊滅的な被害を受けたため、被災地は国の支援を受けて、震災前の町の姿を取り戻そうとしているが、大量の震災がれきが各地区に蓄積されているため、効率的な整地ができないといった課題がある。また、仮設住宅地区に小さな町が生まれ、被災前の町への移住が困難になりつつあることや被災地の多くは、震災前から過疎化が進み、再構築しても震災前以上の町の活気が期待できないのではないかという課題がある。私はこれまで地域住民との共同事業に取り組んでいることから後者の課題に対して解決策を詳述する。(254字)

短文にする。

東北から北関東地方の沿岸地域は、津波で壊滅的な被害を受けたため、被災地は国の支援を受けて、震災前の町の姿を取り戻そうとしているが、大量の震災がれきが各地区に蓄積されているため、効率的な整地ができないといった課題がある。

東北から北関東地方の沿岸地域は、津波で壊滅的な被害を受けた。ため、被災地は国の支援を受けて、震災前の町の姿を取り戻そうとしているが、大量の震災がれきが各地区に蓄積されているため、効率的な整地ができないといった次のような課題がある。

箇条書きにするのはどれか？

東北から北関東地方の沿岸地域は、津波で壊滅的な被害を受けたため、被災地は国の支援を受けて、震災前の町の姿を取り戻そうとしているが、大量の震災がれきが各地区に蓄積されているため、①効率的な整地ができないといった課題がある。また、②仮設住宅地区に小さな町が生まれ、被災前の町への移住が困難になりつつあることや③被災地の多くは、震災前から過疎化が進み、再構築しても震災前以上の町の活気が期待できないのではないかという課題がある。私はこれまで地域住民との共同事業に取り組んでいることから後者の課題に対して解決策を詳述する。

箇条書きにするのはどれか？

大量の震災がれきが各地区に蓄積されているため、効率的な整地ができないといった課題がある。また、仮設住宅地区に小さな町が生まれ、被災前の町への移住が困難になりつつあることや被災地の多くは、震災前から過疎化が進み、再構築しても震災前以上の町の活気が期待できないのではないかという課題がある。

次のような課題がある。

- (1)大量の震災がれきが各地区に蓄積されているため、効率的な整地ができない
- (2)仮設住宅地区に小さな町が生まれ、被災前の町への移住が困難になりつつある。
- (3)被災地の多くは、震災前から過疎化が進み、震災前以上の町の活気となるよう再構築すること。

明確にする。

私はこれまで地域住民との共同事業に取り組んでいることから後者の課題に対して解決策を詳述する。

私はこれまで地域住民との共同事業に取り組んでいることから(2)と(3)の課題に対して解決策を詳述する。

耐震補強工事での不具合は、既設コンクリートにアンカーボルトを取り付ける削孔の際に、既設鉄筋に干渉した場合にはアンカーボルトの定着長が不足し、既設鉄筋の干渉に気づかず削孔を続けた場合には、鉄筋切断となる。アンカーボルトの確実な施工は、耐震補強では不可欠であり対応としては、削孔時のコアが定着長分確保されているか出来高を全数管理し、既設鉄筋事故防止は、コアマシンに電流センサーを取り付け、既設鉄筋干渉時の漏電を確認するなどの方法がある。(216字)

耐震補強工事での不具合は、既設コンクリートにアンカーボルトを取り付ける削孔の際に、既設鉄筋に干渉した場合にはアンカーボルトの定着長が不足し、既設鉄筋の干渉に気づかず削孔を続けた場合には、鉄筋切断となる。

耐震補強工事での不具合は、既設コンクリートにアンカーボルト施工時に取り付ける削孔の際に、次のような不具合が発生しやすい。

- (1) 削孔時に既設鉄筋に干渉するとした場合にはアンカーボルトの定着長が不足する。し、
- (2) 既設鉄筋の干渉に気づかず削孔を続けるとた場合には、既設鉄筋を切断となする。

アンカーボルトの確実な施工は、耐震補強では不可欠であり対応としては、削孔時のコアが定着長分確保されているか出来高を全数管理し、既設鉄筋事故防止は、コアマシンに電流センサーを取り付け、既設鉄筋干渉時の漏電を確認するなどの方法がある。

アンカーボルトの確実な施工は、耐震補強では不可欠であり、上記のそれぞれに対して次の対応がある。としては、

- (1) 削孔時のコアが定着長分確保されているか出来高を全数管理する。し、
- (2) 既設鉄筋事故防止は、コアマシンに電流センサーを取り付け、既設鉄筋干渉時の漏電を察知確認するなどの方法がある。